

福岡ポエイチ公式歌会・歌会記

当日の歌会の様子をご紹介します！
どういう短歌について、どういう意見
が出たのでしょうか。
ご覧いただけるとさいわいです。

日時：平成二十九年六月十日 十九時～二十一時
場所：あずみん

参加者：ろくもじ、石井僚一、野島智司、宇梶晶
子、長月優、雪吉千春、のつちえこ、長友重樹、
刈茅由美、山中もとひ、高松裕己子、清水らくは、
メーベル、東直子（ゲスト）、染野太郎（司会）、
竹中優子（記）、石松佳、田中ましろ、夏野雨、
鯨井可菜子、白水麻衣、稲葉ちさき、南葦太、漆
原涼、三縄直子 計二十五名

参加者二十五名という大人数での歌会となっ
たため、一首については四分程度で、各々の歌の
感想、意見等言い合った。まず、各々良いと思
う短歌を三首ずつ選ぶ（その内訳は省く）。その
後、司会の進行によって指名された人から意見を

言い、その後順次挙手により発言を行った。

注：好きな歌を最初に選ぶのは、なぜその歌を選
んだか、なぜその歌を選ばなかったのかというこ
とを議論の取っ掛かりとするためで、他の人の意
見を聞くうちに最初はあまり意味の取れなかつ
た歌が良い歌だと分かることも多々あるため、自
分の歌に点が入ったか入らなかったかは気にし
ないのがポイントです！

1 もったいないおばけが肩に乗って下書き 欄に積み上がる歌（ろくもじ）

山中：短歌を作る者として、本当に気持ちがあ
る歌。ストレートに詠んでいる。もったいないお
ばけは他にも色んな所にかかっていて、そのひと
つの例えとして短歌が出ている。

雪吉：短歌が積み上がるのと同時に、その歌に込
められた気持ちも積み上がっている。

漆原：実際はこの歌はスマホとかパソコンとか平
面的なものに収められたデータだと思うが、それ
が立体的に認識できるところが面白い。

石井：もったいないと思うのは人間だが、それを
おばけのせいにするという人間の性、その感情の
揺れをユーモアを持たせつつ描いている。

南：もったいないおばけが割とよくある表現かな
と気になるところ。

東：もったいないおばけに可愛らしさと嫌な感じ

両方があり、肩に乗るという下向きなものと、
歌が積み上がるという上向きなものが一首の中
にあるのが面白い。

2 ロープウェイふざけて揺らし笑いあうわたし たちお空の心臓よ（石井僚一）

竹中：恋人同士が世界の中心にいるような感覚と
不安定さ、不安感が混ざっているところがよい。

清水：悪いことをしている楽しさ、生きている実
感。心臓が体内で勝手に動くものというところに
気持ち悪さも出ている。

夏野：万能感を感じた。下から空を見ている視線
が立ちあがるところがよい。

野島：私は子どもとの関係かと思った。だから、
お空なのかと。空の中心としての心臓と、ふざけ
てドキドキしている鼓動が重なっているのが良
い。

田中：ロープウェイという場面の選択がよい。
東：ロープウェイの空に向かっていく高揚感と空
に吊るされているという不安感が上手に描かれ
ている。心臓がいつか止まってしまえば空も消え
てしまうような感覚がある。

3 くちびるをギツとつかまれ血が滲む 君は喃

語で「あい、じょー、だっ」(野島智司)

夏野：最初は子どものことを言っているのかと思
ったが、敢て喃語と書いてあるので大人同士の関
係性かとも思う。どちらにしろ、日常生活の中
の違和感を感じるシーン。それを切り取ったのが
良かった。

のつ…「あい、じょー、だっ」の表現が作為的
すぎるかと思った。

東：子どもの様子だと読んだが、喃語という言葉
にならないもの、偶然発せられたものに「あいじ
ょうだ」という意味のある言葉を重ねたところが
面白い。

4 (非公開)

5 梅雨入りを告げられて街、静けさに咲く信号
を待つ傘の列 (長月優)

鯨井：景が美しい。「静けさに咲く」「信号を待つ」
という二つの修飾が傘にかかってしまっている
のが惜しい。語順をもう少し整理できるのでは。
石松：いわゆる説明的になりすぎているのでは。
ただ描こうとしている景色はいいなと思います。

6 理科室が燃えているのに誰ひとり振り返らな
い避難訓練 (雷吉千春)

田中：あるある短歌ですね。普遍的な共感できる
エピソードを引つ張って来れた所が良い。

竹中：理科室は本当に燃えていると思った。避難
訓練に夢中になっているために実際の火事を見
過ごしてしまうというのと、学生の守られている
感じ、すぐそこに現実が迫っているんだけど、そ
の現実に触れることはできないという感覚が重
なっているのかなと。かなり切実さを感じた。修
辞の力ではなく、歌の内容そのもので勝負してい
るのが良かった。「誰ひとり」と言ってしまうこ
とで、作中主体本人はどこにいるんだろうと視点
がぶれるのは気になった。

ろくもじ：シニールでもあり怖い光景でもある。
神様視点の短歌。読み込むと、理科室が本当に燃
えているのではなく、そういう設定なのに誰も振
り返らないよねという歌と解釈する方が自然に
思えた。でも、本当に燃えているのかもしれない、
そういう怖さが印象的。

石井：フラットに書いてあるからこそ、理科室が
本当に燃えている可能性が出てくる。修辞の効果
がないという意見があったが、修辞を使わないこ
とが逆説的に修辞になっている。本当に燃えてい
るのか、燃えてないのか、その中間点を描くこと
で不気味さが出ている。

東：おもしろい歌だと思った。避難訓練という場
面設定や、誰ひとり決めつけているところがド
ラム仕立てになってしまっているようにも思う。

もっと違う場面を考えてみると良いかも。

7 そよそよとくすぐったくて首筋の産毛いちめ
ん菜の花ばたけ (のつちえこ)

山中：そよそよとくすぐったくてという表現は甘
いとは思いますが、そのストレートさに惹かれた。菜
の花ばたけという発想は自分ではできない。シン
ブルな良さがある。

長月：一読して、幸福感に満ちた歌だと思った。
語感がよいので、声に出して読みたくなる。ただ、
菜の花ばたけまで言われるとついて行くことが
できなかった。

鯨井：思わず自分の首筋を触ってしまった。しか
し、首筋の産毛と菜の花ばたけの飛躍に共感し切
れないところがあった。

漆原：菜の花ばたけはロマンチックな景ではなく、
剛毛な感じというか、コミカルなものだと思った。
宇梶：くすぐりたいというのは自分の感覚だが、
自分の首筋は見えないので、視点の問題が気にな
った。

東：大胆な体感。くすぐったさが心理的菜の花ば
たけを出現させたのだと理解した。草原とかでは
なく菜の花ばたけを出すことで、菜の花のぼこぼ
こしている感じとかちよっと異様な体感という
か、他にない表現だと思いました。

8 カット率99.9%のマスクをかけて説教を聞く (長友重樹)

稲葉…状況の浮かびやすい歌。99.9%というところに防ぎきれない感じが出ています。

三縄…キュウジウキュウテンキュウパーという響きが単純におもしろい。説教を聞くのは耳で、マスクは口を守るものだから、どんなに防御しても耳に入ってくるところが面白い。

南…ズレているものを頼りにしている。そんなものでも頼りにするしかないほど、メンタルが弱っているのを感じた。

長月…説教聞く気がないのが伝わってくる。マスクの下で舌を出していてもバレない。でも、0.1%カットし切れないところに人間的なものを感じた。

東…具体的な数字がその人自身を表している。説教と言うと聞きたくないものの代名詞という共通認識があるので、説教という言葉を使わずに表現しても良かったのでは。

9 たてがきのツバメノートへとうつつしゆく斎藤斎藤佐藤佐太郎 (刈茅由美)

漆原…名詞の選択の的確さが魅力的。斎藤斎藤は現代の最先端の短歌を作る人で、佐藤佐太郎は近代の写実短歌を深めた人。その幅のある二人が同

じノートに並ぶ。ツバメノートというの、このノートじゃないとダメだろうというのが分かる。ろくもじ…単純に音の並びが面白く発見だと思っただ。ひらがなが続いて後半漢字がごちゃごちゃしていくのも紙が黒くなっていくようで、ノートに文字を書いている様子に繋がっている。短歌を知っている人が思わずにやりとしてしまう、そんな所も良い。

鯨井…音韻的にはラップに見えた。もちろん歌の意味がしっかりしていて、心が整う感じが良いとも思う。ツバメノートへの「へと」は意図があるとは思って読み切れなかった。

南…ツバメノートという名詞にも、古い短歌から新しい短歌へ自由に飛び回るイメージがよく出ている。アイテムが上手い。

東…名前をオノマトペに使ったところが良い。前半がひらがなとカタカナだけで後半が漢字だけという字面も面白い。ツバメノートへの「へと」はなぜ「と」まで入れたのか？

10 病猫の逝けばもつとも普遍なる死というものをわれは受けとる (山中もとひ)

宇梶…どんなに自分が好きだった猫でも、よその人から見たらあっさりしたものだ。その他者視点のあっさりとした「普遍なる死」まで受け取ろうという所に魅力を感じた。本人にとってはもちろん

特別な死だが、それが普遍なる死なんだという視点まで持っている。

刈茅…淡々と描いているからこそ、悲しさが伝わる歌だと思う。

長友…実際にあったことだとしたら申し訳ないが、病猫の死から「死というもの」を受け取るというのがありきたりのように感じた。

清水…良い歌と思う。ただ、普遍なる死というものの、という文が意味が強く、同じ感覚を持っていない人には受け取りにくい、自分の中に閉じこもってしまう可能性がある表現だと感じた。

東…病猫というのは、こういう言い方があるのかな。思い入れの特殊さが感じられる言い方で面白い。観念的なものに寄り過ぎていたのかなと感じ、思い入れのある猫のことをもっと描いた方が良かったのではと思った。

11 黒塀の隙間より出づ一輪の青き紫陽花ふかく呼吸せり (高松裕己子)

田中…すごく綺麗な景。狭いところから紫陽花が出てきて、はあと呼吸をした。実際には長い時間をかけて紫陽花は出てきたと思われるが、一首の中に動きがあって、それを早回しした感じがある。鯨井…出づは出づで良いのか？終止形？出づるとして連体形にしては？

漆原…二句切れの「出づ」で良いと思う。主語が

省略されているので、初読では入り組んだ路地を歩く主体の行動として「出づ」を読み、もう一度はじめから読み返すと主体の行動と紫陽花の咲く様子が主体の行動と「出づ」によって重なる。その構造が魅力ではないか。

東…黒と青の色彩が良い。紫陽花で一回切れるのかなと思つた。ふかく呼吸をしたのが作中主体であり紫陽花であるとイメージが重なっていくのは良いが、倒置にせず素直に紫陽花が隙間から出ている、という語順にしても良いかも。

12 室伏が何も投げない夏だから空の広さを数えていよう (清水らくは)

石松…室伏と言われたら、ハンマーが投げられてその向こうに広がっている空の景が否応なく浮かぶ。三句目のだから、に最初違和感があったが、それが説得力に変わった。

石井…室伏がハンマーを投げていたあの空は誰にとっても青い空で、その一点が強い。数えていようなど、下の句はけっこう適当だが気にならないのつ…室伏の魅力、で落ち着いてしまうのがこの歌のもつたいたいところとも思う。下の句に室伏に匹敵する強さがない。広さを数えるという表現はどうなのか。

東…上の句は魅力的。室伏が何も投げないと言われたら、一度室伏がハンマーを投げた情景が浮か

んで、それが打ち消される。室伏の姿を浮かび上げらせるのに打ち消しは効果的。広さを数えるという言い方について、短歌の表現としては必ずしも日本語の文法を正しく守る必要はないが、この場合は広さに自然と続くような動詞にした方が良かったのでは。

13 聞きたいな跳び箱何段とべたとか冷蔵庫にはプリンがあるよ (メーベル)

ろくもじ…母親の歌と読んだ。気になったのは、どこまでが実際に発せられた声なのか、それとも心の声なのか分からない点。どちらにしろ素直なストレートな歌。

石井…聞きたいなという棒立ち状態の初句から来る脈絡の無さ。相手への興味が無邪気に出ているのつ…聞きたいなということは聞けない状態なんだと思つた。そうするとその後の跳び箱やプリンの些細な感じが逆に悲しさを引き立てる。根底としては悲しい気持ちのある歌だと思つた。

14 くりかえしくりかえしみる「なんだよう」私にむけたものでなければ (東直子)

宇梶…「なんだよう」と言っている人物のことがすごく好きなんだなあと感じた。テレビか何かを見ているのだと思つたが、中々離れられない、とっ

ぷり浸かっている、その感じが簡単な表現で書かれているところが良い。

のつ…「なんだよう」が何なのか掴み切れないものがあつた。

雪吉…本当は本人も見続けたくないのかもしれないと感じた。

夏野…見られている対象と作中主体の間に「なんだよう」しか接点がないのだと読み、切実さを感じた。

田中…具体的なものが一切排除されているところがすごいと思つた。

15 蓮が咲くまであとちよつと、さやうならにほくは新しくなつてしまつて (染野太郎)

長月…意味が完全に取れたわけではないが、目が離せなかった歌。さよならによって、僕が何か別のものになつてしまつた。新しくなることは基本的には良いことだと思つた。「しまつて」なのでさせられたというニュアンスがある。その自分のことを認識する、解釈するまでの時間、着地点として蓮が咲くことがあるのかなど。

鯨井…蓮が咲くまでに象徴される本当に短い時間をとらえている。自分が更新さ

れてしまうことへの圧倒的なさみしさを感じた。さよならをさようなさとして三句目を六音にすることで不安定さが出ている。

田中…意味が取り切れなかった。リズムのつつかえる感じが不安定さを出しているという点では成功しているが、自分には読みにくかった。

16 金色のインクを垂らす鳥がここに
いるのだというあなたの夜に (竹中優子)

刈茅…意味が読み切れないところがあるが、物語がはじまるようで魅力的な景。清水…夜に鳥がいるのは現実にはあり得ることで、敢てあまりない金色のインクを持つてくることで、それが本当にはいない鳥だと示している。肯定か否定か分からないが、あなたとわたしの違い、に印をつけようとしている。

メール…意味は取れなかった。パッと頭に浮かんだのは小学校の時にもらった賞状。枠の所に金のインクで鳳凰が描いてある。

漆原…落下する金色の液体、というときギリシア神話のゼウスの変身を思わせる。

官能的な歌と読んだ。

長月…あなたへの全肯定の歌と取った。わたしには分からないけど、あなたがそういうならわたしはインクを垂らすという歌。

東…あなたの夜に、とあるのであなたの世界というかそういうものを大切にしようとしているのかなど。金色と夜なので、星などをイメージした。世界の美しいものを共有したいという気持ちが描かれている。

17 ははそはの母の寝顔を置きに行く
髪を切るる夢の向こうに (石松佳)

山中…私たちぐらいの年代だとははそはの母と来ると介護の歌かと思ったりするが、大きく裏切られる。官能的な展開。イメージが掴み取り切れなかったので選ばなかったが気になる一首だった。

東…母の寝顔というのは子どもに取っては不穏なもの。妙な実感がある気がする。髪を切るというのも断髪式とか現世を立ち切るみたいな意味があるし、母親に對する複雑な思いがある。置きに行くという言葉の使い方が今どきの、新しい言い方。説明できない面白さがある。

18 あめ、あめ！と吾子の五感を揉みくちやにして六月の降りだした雨 (田中ましる)

稲葉…子どもの様子がよく出ている。雨だけでもテンションが上がる様子を五感を揉みくちやにして、と表現されているところが上手いと思った。

石松…一首の中に子ども雨の体感と大人である主体の雨の認識が両方ある。六月の、と降り出したのこの語順が良い。収まりが少し悪いところが子どもと大人の認識のズレに通じている。

漆原…あめにはじまって雨に終わる歌。子供にとっての雨はひらがなで表現される、ニュアンスのやわらかな雨。それに対して作中主体の雨は漢字表記。体系的な言語世界を獲得した主体が、子供の単純なことばの背景に複雑な世界の感受があると感じていた、深い感動が詠われている。

高松…我が子を育てた母として、五感を揉みくちやにしてという表現はよく分かる。

東…五感という言葉を使うと理屈っぽくなるのが気になった。ここは子どもの感

覚で統一しても良いのでは。

19 階段を降りるとちいさな海があり

ウツボ棲んでる天神地下街 (夏野雨)

長友：僕は田舎出身なので、天神の迷路のような街の様子もウツボという表現に含まれるのかなと。楽しげな、水族館のイメージ。

野島：地下街の穴の感じとウツボの穴の感じが重なっておもしろい歌だと思った。

東：天神地下街を知らないが、天神というと神様のイメージがあり面白い。ウツボが穴から顔を出している感じと地下街の穴から人が出入りする感じが重なる。

20 トイレットペーパーの残り少なき

を明るく告げて布団に潜る (鯨井可菜子)

雪吉：残り少なきを明るく告げられても困るなと思った。自分で替えてほしい。自分以外の人がそこにいることが嬉しくて明るく言うのかな。

宇梶：トイレットペーパーを替えるのが

自分に回って来なかったのが嬉しかったのかなと。スムーズに読めて、それがまた明るさに繋がっている。

長月：自分が明るく告げたのか相手が告げたのか判断がつかない。

のつ：明るく、とわざわざ言うということは、明るさじゃないものがあると感じた。コミュニケーションの遮断というかけっこうキツイ歌なのでは？

東：寝る前の一瞬のことを切り取っている。言われるまで意識しなかったが、言われてみるとありそうだなと思う。それを短い言葉で描いているのがうまい。

21 どの靴もそんなに役に立たぬ日の

ソフトクリームのとぐろ、綺麗だ (白水麻衣)

夏野：靴の役立たなさソフトクリームの立派さの対比がおもしろい。

メーベル：すごく暑い日かなと想像した。靴の中には便利なものが色々あるんだけど、そんな暑い日にはいつもの便利なものは役に立たずソフトクリームだけが素敵なものとしてある。

清水：確かにどの靴も役に立たない日ってある。そんな日は何か食べるに限る。

のつ：きれいだ、まで言つと言い過ぎなのかと迷った部分もあった。

東：すごく徒労感に満ちた日。靴は社会性みたいなものも暗示していて、そういうものとソフトクリームの対比。知識が全く無い状態でソフトクリームを見たら、本当に綺麗と思うだろう。私は結句のきれいだ、は好きです。

22 ランチにはささやきと共感持ち寄

ってママはかばんに秘密をしまっ (稲葉ちさき)

田中：景は浮かぶが、リズムの方で引っかかりがあり、止まってしまった。

竹中：描こうとしているものは面白いが、ささやき、共感、秘密が全部概念なのが勿体ない。一発でキャラを引き立たせるような具体的なセリフを持ってこれれば。

東：ささやきと共感が並べられているのが上手い。共感はいも話題でささやきはちよつと悪い話題。最後の秘密、でざっくりしてしまっただかも。

23 鳩は逃げ 外階段を登ったら春の水

分値はやや高め (南葦太)

石井：春の水分値は、湿気のことかなあと。

野島：意味が取れてない。

鯨井：鳩が逃げて、外階段を上って追いかけたのかなと。鳩とか外階段とか前半は広い景を思い浮かべるが、着地するのが肌で感じることに、ミクロな感じのことなので、ちょっと勿体ないかと思った。宇梶：なりゆきまかせの歌。目的もあまりないのかなと。それが面白いと思った。一字空けに、鳩が本当に逃げた感じが出ている。

長月：泣いたことを、春の水分値と言ったのかなと読んだ。鳩を蹴散らして外階段を登ったら、やっと泣ける場所に行けるのかなと。泣いた、という言い方をせず春の水分値はやや高めというのが良いと思う。でも、全体的に読めないところがあり、取れなかった。

24 うつむきて梨を剥きをり黙読の仄かな熱をナイフにしづめ (漆原涼)

白水：梨をむく時と黙読をする時のうつむく仕草の重なり。ナイフをしづめ、のしづめる感覚もよい。しづめとすること

で、梨をむいているときの触感、力を入れる感じが伝わる。

メーベル：ナイフの冷たさと熱の熱さの対比が印象的。

雪吉：黙読という言葉から、ただ読むだけではなくて自分の心の中で言葉を反芻するような感覚を読み、それがその後の仄かな熱に繋がるのだと思った。

鯨井：下向きの動作の言葉が重なっている。うつむく、黙読、しづめる。それが熱、の説得力に繋がっている。

東：梨を集中して丁寧に剥いている印象がある。全体的に整っているが、ナイフに少し不穏なものもあり、面白い。

25 (非公開)

(了)